

2021年12月15日

各 位

会社名 いちご株式会社
代表者 代表執行役会長 スコット キャロン
(コード番号 2337 東証第一部)
問合せ先 上席執行役財務本部長 坂松 孝紀
(電話番号 03-3502-4818)
www.ichigo.gr.jp

「ESG / SDGs 評価シンジケーション」による借入のお知らせ

当社は、長期 VISION 「いちご 2030」のとおり、従来の心築（※1）を軸とした事業モデルをさらに進化させ、「100年不動産」へチャレンジするとともに、地域および地球に優しいクリーンエネルギー事業を積極的に推進しており、サステナブルな社会を実現するための「サステナブルインフラ企業」として大きな成長を目指しております。

こうした当社の取り組みをご評価いただき、本日、株式会社三井住友銀行（以下、「SMBC」という。）が組成した「ESG / SDGs 評価シンジケーション」（以下、「ESG / SDGs ファイナンス」という。）による借入限度額 69.01 億円を設定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

（※1）

心築（しんちく）とは、いちごの不動産技術とノウハウを活用し、一つ一つの不動産に心を込めた丁寧な価値向上を図り、現存不動産に新しい価値を創造することをいい、日本における「100年不動産」の実現を目指しております。

記

1. ESG / SDGs ファイナンスの概要

ESG / SDGs ファイナンスは、企業の事業活動が環境・社会・経済にもたらすインパクトを包括的に分析・評価し、サステナビリティ経営の実現に向けた活動を継続的に支援することを目的とした融資です。SMBC と株式会社日本総合研究所（以下、「日本総研」という。）が作成した独自の評価基準に基づき、企業の ESG 側面の取り組みや情報開示、SDGs 達成への貢献を評価し、その適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取り組み事例などを企業へ還元します。

また、資金使途が限定されておらず、評価される企業の事業活動において、あらゆる使途に活用が可能です。

2. 当社の評価結果

日本総研のオピニオンでは、企業の ESG 側面の取り組みと情報開示の状況を基礎点項目として、方針・目標・指標の設定 (Policy)、具体的な取り組み内容 (Practice)、実績 (Performance) の観点、加えて、SDGs の 17 の目標の達成に貢献し得る取り組みや情報開示に関して、企業価値の向上に直結する加点項目として評価されます。

当社は、企業経営において、優れた ESG 配慮および SDGs 達成に向けた取り組みと情報開示が実施されているとして、主に以下の点につきご評価いただきました。

【環境 (E)】

- ・ Scope 1、2 だけでなく、Scope 3 として、原材料調達先や顧客先における CO2 排出量を把握している点
- ・ クリーンエネルギー事業において、開発確定を含め全国 67 か所、約 198.9MW の再生可能エネルギー発電所の開発、運営を行い、再生可能エネルギーの拡大に寄与している点

【社会 (S)】

- ・ 女性の活躍が進んでおり、管理職（チームリーダー以上）における女性比率は、31.6%（2021年2月末時点）である点
- ・ 事業を通じた地域活性化の取り組みとして、航空会社と連携した地域農産品の販売促進や、太陽光発電事業を通じた地域経済の再生、スマート農業支援を通じた地域雇用創出等に取り組んでいる点

【ガバナンス (G)】

- ・ 「サステナブルインフラ企業」として、不動産事業を通じて地域貢献、社会貢献を果たすことを経営トップがコミットしており、本業を通じた環境負荷低減の取り組みとして、クリーンエネルギー事業を推進している点
- ・ 自社の事業活動に伴う環境負荷削減に向けて、RE100（※2）に加盟し「脱炭素宣言」の表明、国連グローバル・コンパクトに署名する等、国際イニシアティブにも賛同し、ESG の取り組みを積極的に推進している点

（※2）

RE100 とは、世界で影響力のある企業が、自らの事業で使用する電力を、発電時に CO2 を排出しない太陽光、風力、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギーで 100%調達することにコミットし、将来的に脱炭素（カーボンニュートラル）社会に移行することを目的とする国際イニシアティブです。

【SDGs 達成への貢献】

- ・ 本業を通じた SDGs 貢献への具体的な取り組みとして、クリーンエネルギー事業や不動産事業を通じ、地域とともにまちづくり事業を展開し（インプット）、その拡大（アウトプット）を通じて、再生可能エネルギーの増加や地域経済の活性化等を実現（アウトカム）し、SDGs が示す「目標 7（クリーンエネルギー）」、「目標 11（住み続けられるまちづくり）」等の達成に貢献している点



当社では、RE100 の目標達成年限を 2040 年から 2025 年へ 15 年前倒しいたしましたが、さらなる早期実現を目指しております。さらに、「クライメート・ポジティブ」の実現を目指し、温室効果ガスの排出量削減とともに、当社のクリーンエネルギー事業による再生可能エネルギーの創出に全力で取り組んでおります。

また、当社は人類、社会そして地球の一員として、「サステナブル経営」の実現を重要な経営課題としております。企業の存在意義は社会貢献であるという考えのもと、社会をより良い状態で次世代へ継承するため、「サステナブルインフラ企業」として大きな成長を図るとともに、事業活動を通じて社会的責任を果たしてまいります。

3. 本 ESG/SDGs ファイナンスの概要

- ① 借入限度額 : 69.01 億円
- ② 借入先 : SMBC をアレンジャー兼エージェントとするシンジケート団
- ③ 引出期間 : 2021 年 12 月 20 日から 2022 年 9 月 30 日
- ④ 最終返済期日 : 2028 年 12 月 29 日 (7 年間)
- ⑤ 契約締結日 : 2021 年 12 月 15 日

※ 本 ESG/SDGs ファイナンスの金利につきましては、SMBC およびシンジケート団との取り決めにより非開示とさせていただきます。

4. 今後の見通し

本取り組みによる 2022 年 2 月期の当社連結業績に与える影響は軽微ですが、当社の財務基盤のさらなる強化に資するものと考えております。

以 上